

東京農業大学稲花小学校

学校だより【11月25日】第31号



こんにちは ダンゴムシ・ワラジムシ

11月14日(木),「食と農」の博物館に隣接する「一般財団法人進化生物学研究所」研究員 蛭名 元(えびな つかさ)先生が,ワラジムシを連れて農大稲花小学校にいらっしやいました。稲花タイムの授業のためです。題して「ダンゴムシ・ワラジムシ対決!」。



からだの構造観察をした後,「はやさ対決」「のぼり対決」などの「うんどう会」,「あるくルール探し」などで,楽しみながら生物学の基本を学びました。ワラジムシやダンゴムシは,遠くまで食べ物を探しに行けるような歩き方をします。蛭名先生の指導で,子どもたちはたくさんの発見をしたようです。

みかんの秘密 学びました

11月15日(金),東京農業大学国際農業学科の卒業生 福田浩樹様(株式会社福田農場)から,農大稲花小学校1年生全員に,早生温州みかん(品種 宮川早生),レモン(品種 マイヤー),そして,ライム(品種 タヒチ)をプレゼントしていただきました。そして,東京農大の志和地弘信教授には,これらの柑橘を題材に食育のミニ講座をしていただきました。温州みかんには,種がありません。どうして種がないみかんができたのか,志和地先生はポケモンのキャラクターを使って突然変異について説明。一年生の子どもたちは,なるほど!と腑に落ちた様子です。また,みかんの皮を剥かずに中の袋の数を知る方法についても,楽しく学びました。酸味のバランスが絶妙な温州ミカン(減農薬栽培)やレモン(減農薬栽培)はもちろんのこと,珍しい国産ライム(JAS有機基準栽培)も,それぞれ子どもたちが持ち帰りました。きっと,保護者の皆様にも喜ばれたことでしょう。

九州は熊本県不知火市で,新しい食の風景を作ろうとしている卒業生とそのご家族が営むのが福田農園です。東京農大生も農業実習でお世話になっています。農大稲花小学校の食育教育を,東京農業大学のたくさんの方々が応援してくださっているのを感じます。



稲花タイム厚木自然観察実習第二回目

11月19日(火)に1年1組が、11月21日(木)には1年2組が、厚木キャンパスにお邪魔し、「みんなの もったいないガーデン」での植物観察と、「バイオセラピーセンター」での動物観察を行いました。

植物観察のご指導は、生活デザイン農学研究室 土橋 豊教授と学生さん。カラシコエやオリズランなどの変わった形や手触りの植物や、ラベンダーなどのハーブ類に触れながら、五感で植物のいのちを体験しました。「みんなの もったいないガーデン」は、園芸療法や環境教育の実践の場として整備されているもので、地域の方々にも親しまれているそうです。動物観察も同じ研究室の土田あさみ教授、森元真理先生などの先生方や学生さんたちが指導してくださいました。ウマ、ヒツジ、モルモットを観察したり、そっと手に持ってみたりして、動物に親しみます。最初は「ウマ？ 見たことあるもん！」「モルモット、知ってる～」などと言っていた子どもたちも、本物のウマが目の前で走る様子や彼らの優しい目、あるいはヒツジやモルモットのにおいや毛ざわり、暖かい体温を体感することで、「知ってるよ～症候群」から抜け出したようです。

お世話になった厚木キャンパスの皆様に、改めて御礼申し上げます。

冬の制服で

11月からは冬の制服に衣替え。帽子、ジャケット、半ズボンかキュロットスカートの姿の子どもたちが、元気よく小学校で勉強しています。衣替えの最初の週は、暑いからといってジャケットをランドセルに入れて帰ろうとする子どもや、寒いからと真冬並みに着込んで汗をかきながら登校してくる子どももいました。それだけではなく、実は、週の始まりには上履きを忘れてくる子ども、雨なのに傘が見つからない子どももいます。低学年の間は、自己管理がまだまだ難しいのです。しかし、言われなくても自分の身の回りのことができる自立した子どもに育つよう、辛抱強い見守りと指導が必要だと考えています。

服装や持ち物、あるいはマナーが不適切と思われるお子様には、学校から保護者様にご連絡することもあります。しかし、幸いなことに概ね、子どもたちの服装や持ち物、マナーは、農大稲花小学校の児童にふさわしいきちんとした節度あるものになっています。保護者の皆さまのご協力も大きいところです。叱られるからとか、規則だからしかたなくではなく、マナーを守る人としての美しさや、マナーを守ることの心地よさを理解して育つことは、子どもたちの将来に大いに役立つに違いありません。

2020年度入学試験が終わりました

たくさんの応募者があった 2020 年度入学試験。前期・後期とも試験が無事に終了し、合格者発表をいたしました。合格されたお子さまと保護者の皆様には、心からお祝いを申し上げます。また、残念ながらご縁がなかった皆様にも、これからも変わらずに、食や農、いのちや環境に関心をお持ちくださるよう願っています。未来を創る子どもたちを応援するのは、私たち大人の一番大切な役割だといってもよいでしょう。

ドーナツバッジ?ではありません

国連による「持続可能な開発目標 SDGs」をテーマに、東京農業大学でも多数の研究室や教員が、地球の課題に挑んでいます (<https://www.nodai.ac.jp/guidebook2/univ/>)。その一環として SDGs バッジを着用して登校したところ、子どもたちは「ドーナツバッジ?」とすぐに注目。勤務先などで SDGs の課題に注目している保護者の皆さまも多いことと思いますが、1年生の子どもたちに説明するのは、容易ではありません。しかし、国連では、「『[出発進行! きかんしゃトーマスとなかまたち](#)』SDGs 啓発ビデオ日本語吹き替え版」を公開しています。とてもわかりやすく、親しみやすいものです。ご家庭でもご覧になってみてください。



校長 夏秋 啓子